

# 令和4年度地域部活動推進事業

I 休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究

射水市教育委員会

## ●現状・課題

### 【中学校の現状】

- ・教員の学校や学級運営、授業準備や研修等の本来の業務にあたる時間が圧迫されたり、休日の指導、大会引率、大会運営に多くの時間を取られたりしている。
- ・生徒数の減少に伴い、学校単位でチームを組めない競技種目が増加し、希望する部活動の選択が困難になると予想される。
- ・週に1日、原則として月曜日並びに土曜日、日曜日のいずれかの計2日間を休養日としている。1日の活動時間は平日では2時間程度、学校の休業日（学期中の週末含む）は3時間程度としている。このため、競技力向上を目指す生徒の思いに寄り添うことが難しい。
- ・教員が専門外の種目を指導している部活動があり、成果を求められることなどが精神的にも負担となっている。また、生徒にとっては専門的指導が受けられないことがある。
- ・教員の異動による影響を受ける面がある。
- ・専門性を持つ外部指導者は会社員など常勤者が多く、学校が計画する日時での指導が難しい。このため、人材の確保も困難を極めている。

### 【地域活動の現状】

- ・学校で指導をしている外部指導者が、地域クラブの指導者となっている場合があり、地域クラブに参加した場合、生徒や保護者からみると部活動との明確な区別がつきにくい。

## ●実践研究校・競技

実践研究校 市内中学校6校

競技 剣道・柔道・バスケットボール

## ●実践内容

	剣道	柔道	バスケットボール
対象校数（部員数）	男子6校 女子6校(95名)	男子5校 女子1校(52名)	男子3校 女子5校(122名)
参加生徒数（参加率）	90名(95%)	49名(94%)	87名(71%)
活動開始日	9月19日(月・祝)	9月25日(日)	11月6日(日)
活動回数（～3月末）	20回	23回	17回
活動形態	4会場 アイソ軽金属スポーツセンター 大門総合体育館 小杉中・小杉南中	1会場 アイソ軽金属スポーツセンター	男子1会場 女子2会場 ビルト・プレイス 歌の森体育館 ヨシダ 大島体育館 新湊中、小杉南中、新湊南部中
主管及び指導者	射水市剣道連盟	射水市柔道連盟	射水市バスケットボール協会
指導者数（内教員数）	21名(3名)	9名(1名)	19名(6名)

### モデル事業の必要経費

①指導者謝金（1会場1回当たり 1,600円×3時間×2名分=9,600円）

②スポーツ保険加入料（参加生徒226名分 登録指導者49名分） ③消耗品（救急セット等）

## ●参加者の声

- 生徒・保護者アンケートにて「満足している」、「だいたい満足している。」と回答があった参加者の声
  - ・専門の指導者に教えてもらえる。
  - ・今までやったことのないことをすることができる。
- 生徒・保護者アンケートにて「あまり満足していない」、「満足していない。」と回答があった参加者の声
  - ・学校の部活動の指導者とは違う。
  - ・活動場所までの送迎（用具の運搬）が大変。
- 部活動顧問アンケートにて「負担軽減につながった」と回答があった参加者の声
  - ・家族との時間や自分の時間をもてるようになった。
  - ・精神的に楽になった。
- 部活動顧問アンケートにて「負担軽減につながっていない」と回答があった参加者の声
  - ・部活動を負担だと感じていなかった。
  - ・市外の学校（地域移行していない）との連絡調整が負担になった。

## ●成果

- ・生徒の7割が「満足している。」特に、個人競技の「柔道」「剣道」でその割合が高い。個人技能の向上が、チーム力に直結することから、個人競技に関しては、地域移行による合同での活動は、受け入れられやすいと考えられる。
- ・半数以上の保護者もモデル競技の地域移行に「満足している。」
- ・部活動顧問の約8割が「負担軽減」につながっており、大きな成果である。同時に、これまで部活動指導の負担の大きさを改めて認識することとなった。

## ●課題

- ・保護者の意見から①活動場所への生徒の送迎の負担 ②用具（剣道防具）の移動の負担 ③地域部活動に関する連絡系統への不安が課題として挙げられた。
- ・「学校部活動」「地域部活動」「地域のクラブ」ともに所属している生徒の中で、大会参加等に不安や困惑を感じている生徒や保護者が複数いる。大会参加を含めた活動方針等を整理し、理解を得る必要がある。
- ・国の地域移行の推進方針と日本中体連の「大会参加資格」の考えに乖離があり、大会参加に係る市の取組が白紙となる事態が起きた。将来の展望を考慮した先行的な方針が否定されることとなり、協力団体や行政の推進意欲の低下を招いている。

## ●課題解決に向けて

- ①活動場所への生徒の送迎の負担 ②用具（剣道防具）の移動の負担について
  - ・少子化により、生徒数の減少が進行し、近い将来、現行の部活動数の維持が困難になることが確実であることや指導者が不足している状況から、地域部活動は、複数校の合同（設置部の少ない部は一斉）会場で展開していくことが望ましいと考えている。活動場所への移動は、各家庭にお願いするしかなく、保護者へ丁寧に説明しながら、理解を得るほかないのが現状である。
- ③地域部活動に関する連絡系統への不安について
  - ・運営する競技団体毎にスマートフォンアプリ等（LINEやBAND等）を利用し、保護者との連絡方法を確立していただくよう依頼調整中。
- ④各自治体によって部活動に係る実態の違いがある。地域移行のスタイルも実態に応じた形、方法等とな

る。しかし、市が認めた「地域移行の受け皿となる地域スポーツクラブ」が大会参加資格に反するとされると、今後、地域のスポーツ団体との連携において、移行の推進を図ることができない。日本中体連への働きかけを願いたい。

## ●今後の課題と対応

### 【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】

- ・令和5年度から射水市体育協会と連携し指導者の派遣や会場確保といった地域部活動の運営事務を段階的に委託し持続可能な組織体制の整備を推進する。

### 【地域特有の課題への対応策】

- ・公共スポーツ施設に限りがあるため、地域移行を推進するにあたり、活動場所の不足が懸念される。令和5年度から、学校施設の活用も含めた活動場所の確保や運用ルールの策定等を進める。

### 【困窮世帯への支援方策】

- ・令和5年度は地域部活動の持続可能な事業実施のための経費を算出・整理し、保護者の費用負担の在り方を検討する。